

2021年度木岡哲学塾 [秋期] : 「時間とは何か」 ㊦

1 時間と〈私〉 (9.10) ㊦

各自がこれまで体験してきた「時間」の意味を、それぞれの言葉で語り出し、意見を交換する。時間を考えることの意義にふれた人々の発言を手がかりに、それぞれの時間についての理解や疑問点を付き合わせて検討する。㊦

2 瞬間と持続 (9.24) ㊦

主宰者が、若き日に取り組んだベルクソン哲学、その中心思想は「持続」。時間の連続を否定する「瞬間」の問題に目覚め、以来、ほぼ半世紀を費やして今日に至った、自身の研究歴を振り返りながら、連続と非連続の関係を考える。㊦

3 時間の比較社会学 (10.8) ㊦

人間社会は、それぞれの世界に適合する時間の観念をつくり出し、それに一致する生活を営んできた。直線的な時間、循環的な時間など、古今の代表的な時間観念を取り上げ、それがどのようにして成立したのかを考える。㊦

4 近代の時間意識 (10.22) ㊦

科学技術の発達により、空前の「進歩」を遂げた西洋近代世界。その「進歩」は、直線的時間の図式と深く結びついている。現代人の常識の底にある時間観念が、近代に生まれたフィクションであるゆえんを解き明かす。㊦

5 仏教の時間意識 (11.5) ㊦

仏教的な「輪廻」に代表される反復的・循環的な時間は、西洋近代の直線的時間と鋭く対立する。仏教にはもう一つ、「刹那滅」と呼ばれる特殊な考え方が存在する。「輪廻」「刹那滅」の考えが、どうして成り立ったのかを明らかにする。㊦

6 「瞬間」とは何か (11.19) ㊦

ここまで検討してきた東西の時間観念をふまえ、ほぼ同義とされる「瞬間」と「刹那」の共通点と相違点を明らかにする。両語の意味の重なりと食い違いは、そのまま東西両世界の共通性と差違にほかならないことを示す。㊦

7 〈邂逅〉の条件 (12.3) ㊦

東西の時間論を比較して、共通の地平を開くことは、二つの世界が出会う（邂逅する）ために必要不可欠な手続きである。〈邂逅〉の条件となる時空のあり方を、風土学の立場と目的に沿って明らかにする。㊦

8 総括討議 (12.17) ㊦

参加者が年間の講義から得た成果や疑問を、それぞれが披露し、今後に向けてのテーマを確認するための対話を展開する。㊦